

## 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

### 地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
理念に基づく運営	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

### 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

### 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名  
(ユニット名)                      グループホーム帯迫 和

所在地  
(県・市町村名)                      吉野町2826-1

記入者名  
(管理者)                                  山本 美和

記入日                                      平成 20年 10月 3日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	目に付きやすい玄関に掲示している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勉強会時に実践に向け話し合いを行っている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時、面接時に説明している		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外で近所の方に出会ったら挨拶をするように心がけている。またふれあいマーケットを開催し、地域の方がホームへ立ち寄れる機会を作っているが、気軽に立ち寄ってもらえるような状態にはなっていない。		散歩や外出の機会を増やし、隣近所の方と顔なじみになるように努める
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り参加できる行事には参加し交流を心がけている		まだグループホーム自体あまり馴染みがないようなので、外出・散歩時に挨拶会話など積極的に行う散歩をしながらごみ拾いを定期的実践してみる

鹿児島県 グループホーム帯迫 和棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ふれあいマーケット開催時に車イスや体験コーナーを設け、高齢者の暮らしを身近に感じてもらえるよう取り組んだ		日常、認知症についてなど、相談の窓口の役割を果たせるよう地域の方に理解・信頼してもらえるよう取り組む。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘されたところなど改善できるように努めている。前年度の内容を活かし、今年度改善し、取り組みに生かしている。常時確認できるように、棟のリーダーは自己評価内容を手元に渡してある。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い、その中で出た意見等については出来るだけ早く対応している。例)防犯面はどうなっているのか？地域の警察に連絡をとり対応		会議に参加したものは内容について意識が高いが、参加していないと関心が薄かったりするので、会議の内容を速やかにスタッフへ伝達する
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へのはたらきかけは積極的でない		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実践者研修などに参加し、学ぶ機会を得た。		今後も継続して、勉強会等で学べる機会を作りたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や委員会活動を通して虐待防止に努める。		身体への虐待だけではなく、言葉による虐待にも気をつけていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族へ説明し、不安なこと心配なことなど聞いて援助を行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者より意見等あったときには速やかに対応するようにしている。		話をじっくり聞くことの出来る環境を作る
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	お小遣い帳に毎月サインをもらっている。面会時には日々の生活の報告を行っている。 また毎月便りをだし日常生活の報告を行っている 健康状態に変化があるときには、そのつど連絡している		継続
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置して対応している。又面会時に話をし、何でもいいやすい関係作りを心がけている		委員会活動を通して、もう少し家族の方が利用しやすい意見箱を作りたい
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を月に2回行い意見交換をしている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要人数がそろうよう勤務が決まっている。また変更があるときも連絡はされる		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動はなくなじみの関係は作られている。離職があったときには最後の日に挨拶をしてもらうなど区切りをつけている。又そのことについて利用者より問いかけがあったときには、そのつど説明を行っている		離職の理由を考え、次回はどうしたら離職しないのか考える。

## 鹿児島県 グループホーム帯迫 和棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に交代参加してもらい、会議時に報告を行い情報の共有を図っている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム(3ヶ所)で勉強会、交流会を行っている。地域のグループホームとの交流会も発足し、継続していく予定である		現在は管理者・計画作成担当者だけの集まりとなっているが、今後は職員同士のつながりも作っていきたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勉強会でストレスについて話す機会をつくった。忘年会、ビアパーティーが法人で開催している。		継続
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	半年に一度目標を設定し、問題や個人について話す機会を設けている		目標設定に対し、より具体的に行動できるように働きかけたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に本人と話す機会を作り聞き取りを行っている 家族から話を聞いたりしている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所に関する説明を行う際、じっくり話を行えるよう心がけている		

鹿児島県 グループホーム帯迫 和棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族と話をしどの様なことを望まれているのか、生活暦などを 含め聞き取りを行い、スタッフで入所前カンファレンスを行う ようにしている</p>		<p>じっくり話し合うことが出来るよう早めに情報が必要となる。 他にサービスについてあまり知る機会がないので勉強して いきたい。(入所しているときにどんなサービスが利用できる のか)</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している</p>	<p>今までと違う援助を行う際には、話し合いを行い又家族にも 相談を行い本人の様子を見ながらサービス提供を行っている。 時間とともに解決することもあるので急になじませようとす るのではなく徐々になじんでいただけるよう支援していく</p>		<p>本人の趣味、したいことがわかったら取り組んでいく</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に喜んだり、悔しがったりそのときの感情を共有すること で信頼してもらえるように行っている。 本人の得意なことを活かし職員が教わることも多い。いろい ろな面でこちらが教わることも多い</p>		<p>利用者と一緒に教え教わりの関係を作っていく。 何かをお願いした時には感謝の気持ちを伝える</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている</p>	<p>日頃の報告を行いながら、関係作りに努めている</p>		<p>職員と家族のコミュニケーションを十分に図ることが必要。 面会にこられる方とは関係が築かれていると思うが、なか なか面会にこられていない方との関係作りが今後の課題であ ると感じる。定期的に電話連絡をし便りの一方的な報告だ けではなく、家族の反応も感じていく。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている</p>	<p>気遣いの声かけに注意している。 本人が家族のことを話していたことを伝える等、近状報告を 密に話している</p>		<p>今後もこれまでのようにより密に関係作りをしていきたい。 そのことにより、よりよい支援につなげていきたい</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている</p>	<p>本人とコミュニケーションをとり不安のない様援助している。 友人の面会があるときも暖かく迎え入れている</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている</p>	<p>作業レク、ゲーム等を行い利用者同士かかわれる機会を 作っている。利用者同士の関係を把握し席の場所等を考え ている</p>		<p>席替えの際にも利用者の関係を十分に理解し行っていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去し、デイサービスを利用するようになった方にも遊びに来てくださいと伝えている。 亡くなられた方の家族とはその後の付き合いというのはなかなか出来ていない		退所されても不安・心配事があつたらいつでも話してもらえるように伝える。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスを行い検討して、情報交換・担当者会議を通し本人の意向の確認を行っている		普段の会話から本人の希望は何か話を聞き、検討する。小さなことでも記録をするようにし、情報の共有をはかる。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーを読んだり。家族に情報を聞いたりしている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カンファレンスを行い検討、また日常の様子観察を行い状態把握に努める		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを行っている。 一人一人が統一した介護が出来るように意見アイデアをだす。訪問看護師などからも意見をもらっている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者会議等を行い現状にあった計画を立てていると思う。容態が不安定な際など密にカンファレンスを開き、共通認識を持つようにしている。また、ご家族がすぐに来所できない時は、意向を伺い、病院との連絡調整に努めている。週1回介護カンファレンスを開くように取り組みを開始した。		いろんな分野からの意見をもらい反映させていきたい

鹿児島県 グループホーム帯迫 和棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し情報を共有している。記入内容の検討、介護ケアへの反映するための取り組みも介護カンファレンスにて検討中。		継続
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望には出来るだけこたえるようにしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ふれあいマーケット時には民生員やボランティアさん、小学校、中学校に協力をいただいた。		今後小学校とも関係作りを行っていきたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の部署のケアマネと話しあい、地域の情報を話す機会はある。訓練士と話し合い、法人外からの訪問マッサージを行っているケースもある		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を聞き希望に答えられるようにしている。定期的に訪問診療を行っている		他医療機関を受診するときには家族に連絡し了承を得ている

鹿児島県 グループホーム帯迫 和棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎日の報告、訪問診療や訪問看護が定期的であり相談を行っている。また、合同のカンファレンス、メーリングリストも立ち上げ、活用始めている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護師による訪問看護が1回/wがあり、健康相談を行っている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院したときには病院と連絡を取り利用者にとってよい状態に(場所)持っていけるよう相談をする		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について医療機関を交えて話し合いの機会をもった終末期となったときに今後のことを話し始める。日々の状態は報告している。実際看取りを経験したがケア方針を共有し介護が出来たと思う。		終末期のもだけでなく、日頃の生活・ケアの延長線上に終末期があるので、日頃からのケアの方針を共有することから充実させていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	カンファレンス等を頻回に行い、出来ること出来ないこと検討・準備が出来たと思う。		経験を活かし、終末期を迎えるときには介護として出来ることをしていきたい
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	在宅へ戻られるときは、想定し、退去前に家族、サービス事業所と話をすることができた。また、退去し、在宅での生活にて混乱しない様に、出来ることは自分でしてもらい機能の維持に努めた。老人保健施設からの転居者に対し、以前の生活を尊重し、取り組み、生活リズムを引き継いだ。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉遣い、声かけには意識しながら対応を行っているが、時折プライドを傷つけるような発言があることがある。</p>	<p>スタッフのその時々状態により変化もあり、今後の課題でもある。スタッフ同士お互いに注意しあえる関係を持ちたい</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人に合わせケアを行うようにしている。時にはこちらの都合で動いてもらっていることがある。</p>	<p>時間をかけゆっくり説明し納得してもらえよう心がけたい</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人のペースを大切にするよう心がけているが、業務にあわせて動いてもらうことも多々あると思う</p>	<p>入所者さんのペースに合わせ、ゆとりのあるケアを行う。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>化粧をされる方、髪を伸ばしている方もいるが否定することはなく、又定期的に散髪が出来るようにもしている</p>	<p>家族の方に行きつけの店がなかったか尋ねてその場所に連れて行く</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一緒にお菓子を作ったり、片付けを手伝ってもらいながら行っている。</p>	<p>利用者様の可能性を活かしていきたい</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>毎日一人一人にあわせて作ることは出来ないが、日によりそれぞれの好みのものが出るだけ入りにしている。</p>	<p>お酒を好まれる方にはもう少し日常的に提供してみる</p>

鹿児島県 グループホーム帯迫 和棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	食前後の排泄や訴えがあったときにはトイレ誘導を行っている		その方の状態を見ながら臨機応変に対応していきたい
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴剤などを使いリラックスして入浴を楽しんでもらっている。入浴は大体一日おきになっている		入浴を楽しんでもらえるよう工夫していきたい。(香り・色・音等)こちらの都合で入浴を決めてしまうことがほとんどなので、曜日・時間に関わらず入浴できるようにしたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後のお昼寝をしてもらっている。(希望される方は)夜間も食後直ぐ入眠を促すのではなく、一緒にテレビを見たりすることもある		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽鑑賞をされたりする方もいるが、利用者よりこれが見たいという希望を言われることが少ないのでこちらで様子を見ながらレクなどの提供をしている。(室内の飾り作り・調理・洗濯物・裁縫)犬好きな方には犬に触れる機会も作っている		テレビをダビングし、みてもらっている。(歌番組)好きなことがはっきりしない利用者にも何か楽しみを見つけ出したい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出るときにはお小遣いを持っていくが、買い物に行く方がいつも一緒になってしまったり、ということがある。又、なかなか自分で支払いをされようとされないことが多い。		お金の支払いが出来るよう支援したい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出・散歩・買物の声掛けを行っている。また要望があったときにも対応している。 特定の利用者の外出が多くなってしまふ		家族との外出が行えるような計画を立てていきたい
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族会を通して、行きたい場所に行ったり、普段でもドライブを行ったりしている		家族の参加が少ないので積極的に声をかけたり、年間の行事予定として日にちまで決定したものを伝えたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が直接話せないときには職員が間に入り援助を行っている。年賀状・暑中見舞いはレクリエーションの一部として行っている。本人の希望があるときのみ電話連絡をしている		字の書ける方は定期的にはがきを書いてもいいのではと思う
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族との間にもコミュニケーション、信頼関係を築けるようにしている。居室でゆっくり話が出来るようにしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	物理的な身体拘束は行っていないが、言葉で行動を止めてしまうことがある。(ちょっと待ってて・立つと危ないですよ)身体拘束委員会がある。活動が停滞しやすい状況であるが、マニュアル作成している		物理的な拘束はもちろんだが、言葉の拘束というものがあることも常に意識していきたい 委員会の活動を継続し、啓蒙していきたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることはない。 夜間も利用者の部屋には鍵をかけない(本人がかかる場合を除いて)		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	視野内にて様子観察を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険のリスクが高いものは保管している。(朝と夜の確認も行っている)		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災訓練を行いそれぞれの状態を把握している。 誤薬を防ぐ為に二人で確認している 転倒については個々の状態に応じ対応している		

鹿児島県 グループホーム帯迫 和棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会や必要だと思ったときに学習する機会を設けている 緊急連絡策などわかりやすいところに明記している		応急手当の訓練の勉強会を定期的に行う。消防に協力を得る
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行っているが、地域の方を交えたものは行っていないので協力を得られるかは不明である。 夜間帯の訓練を行ったことはない。運営推進会議で民生委員を交えて話をした。		地域の協力を得られるような働きかけ。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時に様子を伝え、このようリスクはあるがこのように対応していますと説明を行っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	病院と連携をとり変化など観察を行い、何かあったときには直ぐに報告するようにしている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方された時には、観察を行い訪問診療時に報告を行うようにしている。 全ての薬について副作用を知っているとはいえない		ホームの辞典で調べたり、薬の配達があったときに薬剤師に尋ねる
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取・運動に心がけているがそれでもないときには、医師の指導の下内服薬にて調整を行っている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。夜間に入れ歯洗浄剤に入れている。残歯のある方の口腔ケアが行き届いていない部分がある。歯科往診があり、資料を頂いている。		歯科往診のあるときに磨き方の説明をしてもらう。 磨き残しがないか確認をする

鹿児島県 グループホーム帯迫 和棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・水分チェックを行っている。それでも水分摂取量が足りない方がいる		お茶だけではなくコーヒーや紅茶など味を変え飲んでいただけるような工夫を行っている
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防セットを準備しており、いつでも使用できるようになっている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いをを行い消毒も実施。 毎日まな板・布巾は消毒を行っている。又食事は残りが出ないように、作り残しはしないようにしている		調理用具の清潔に努める(まな板・布巾以外)
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いつでも玄関は開いている		玄関先に季節の花を飾りたい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や玄関、居間等紛らわしくないよう飾り立てすぎないようにしている。入居者も参加し、季節感を出せる演出を心がけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごして頂いたり、自室でテレビを観ていただいたりしている		

鹿児島県 グループホーム帯迫 和棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に装飾していただいている。又写真があれば持って来ていただいている 家具の配置をするときには、家族・本人の意見を聞いたり、協力を頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝掃除のときに換気を行っている。 エアコン使用時には適宜換気を行っている 臭いが気になるときにはお香をたいている		個々の好みの室温があるのでそれぞれで調整している
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	滑り止めを使用するなど安全に気をつけている		身体機能を詳しく把握し自立した生活が出来るようにする
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	おやつ作り・調理の手順を分担し、また、後片付け等、生活参加の場面を作り、ご本人のわかる力、手伝いたい思いを満たせるように取り組んでいる。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にテーブルを置き天気の良い日には利用している 野菜を植え、栽培し、育った野菜を自ら取りに行き、食事に使っている。		天気の良い日は中庭でのレクリエーションを行いたい

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

鹿児島県 グループホーム帯迫 和棟

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域に溶け込んだホームに成りたい。子供たちとふれあい利用者にも生き生きと生活していただきたい。

地域になじむ為にも、ホームのことを理解してもらえよう毎年ふれあいマーケットを開催している。気軽に立ち寄っていただき地域に密着したホームでありたい。